

# 内部河川・運河の活用と コミュニティ強化

## PROJECT MEMBER

〈代表者〉	工学部 建築学科	教授：志村 秀明
〈構成員〉	工学部 土木工学科	教授：遠藤 玲、守田 優
	工学部 建築学科	教授：郷田 修身、堀越 英嗣 准教授：原田 真宏
	工学部 建築工学科	教授：清水 郁郎 准教授：佐藤 宏亮
	システム理工学部 環境システム学科	教授：中野 恒明
	デザイン工学部 デザイン工学科	教授：桑田 仁、篠崎 道彦

江東区と中央区では、河川と運河の再生と活用は大きな課題であり、また都心回帰で人口が増加しているものの、地域コミュニティの強化が課題となっている。そこで本活動は、内部河川・運河の活用とコミュニティ強化をテーマとして、学生への教育と研究、社会貢献を相互に連動させて進めている。2015年度からは、さいたま市と福島県南会津町でも地域コミュニティ強化の取り組みを進めている。

教育では、演習授業で江東内部河川の魅力向上・活用やコミュニティ強化を課題とし、実地での市民レクチャー、学内での市民も含めた発表会、地域施設での展示・公開発表会を行った。また江東区豊洲地区を対象として運河と水辺の活用・コミュニティ強化の提案を作成し、自治体職員・市民に対する発表会を行った。研究では、江東区等を対象とした調査・分析を行い、それぞれ学生が卒業論文としてまとめた。また学生らは、日本建築学会大会などで研究成果を発表した。地域貢献では、学生と市民を対象とする長屋学校の開校、地域地図の英語版作成及び外国人に対するまち歩きツアーの実施(国際会議Walk21でWalking Visionaries Awardsを受賞)、地区協議会やNPOと連携してのイベント開催、河川・運河活用を促進するためのフォーラムの開催、市民講座の開講などを行った。

## 2015年度活動の成果

### 教育

- 1) PBL：建築学科「地域設計演習」「地域分析演習」「建築ゼミナール2」(3年次後期)  
「地域設計演習」「地域分析演習」では、「河川・運河と水辺を中心とするコミュニティ・デザイン」をテーマとして、江東区深川門前仲町地区を対象として実施した。履修者は18名であった。学生達は、最初の授業で対象地区を視察すると共に、市民リーダー2名から地域に関するレクチャーを受けた。また、チャーターした船舶に乗船して水上から地域の状況を確認した。授業最終日の発表会では、ゲストとして招聘したまちづくりの市民リーダー3名から、提案について講評を受けた。「建築ゼミナール2」では、江東区豊洲・東電堀を対象として、運河の活用とコミュニティ強化を課題とした。このゼミナールは研究室単位でテーマを決めて実施するため、本テーマへの履修者は7名であった。ゼミナールの最終回では、ゲストとして招聘した江東区まちづくり推進課の職員2名とNPO法人理事長から、提案について講評を受けた。以上のように、学生は市民や自治体から自己の提案についての評価を確認することができた。
- 2) 深川東京モダン館での作品展と発表会・公開講習会の実施：江東区門前仲町にある「深川東京モダン館」に

において、2015年6月中旬の9日間にわたり、「地域設計演習」「建築ゼミナール2」「建築設計演習I」の作品を展示した。展示期間中、学生は交代で作品の説明に当たり、来場する市民の評価を確認した。更に、6月20日には、学生発表会・公開講評会を行い、17名の学生が自らの作品について発表した。市民ら21名の参加者があり、学生は市民の前で発表する経験をもつことができたと共に、市民の評価を直接確認することができた。



「地域設計演習」発表会：学生は市民から講評を受けた

## 研究

### 1) 卒業研究

● 開放型キャンパスにおける学外者利用の実態に関する研究：芝浦工業大学豊洲キャンパスにおける市民のキャンパス・中庭の利用実態を定点観測とヒアリング調査から明らかにした。

● 新規小規模事業者による既存建物活用の実態に関する研究：江東区清澄白河地区におけるカフェやギャラリーの事業者と既存建物利用の実態をヒアリング調査などから明らかにした。

● 芝浦工業大学生の居住実態及び地域参加の可能性に関する研究：江東区内の芝浦工大生の居住状況を把握し、また学生の地域参加に関する町会といった地域組織の意向を把握した。

● 自治体と大学が連携するボランティアセンターの可能性に関する研究：江東区と大学が連携するボランティアセンターの可能性をアンケート調査とヒアリング調査から検討した。

### 2) 修士研究

● 地区協議会による水辺・運河活用の方法に関する研究：運河ルネサンス協議会へのヒアリング調査などから水辺活用を推進するための協議会の体制について検討した。

● 6次産業化を目指す協働型集落支援の方法に関する研究：福島県南会津町での特産品開発の活動を事例として、ヒアリング調査などから協働型集落支援の方法に

関する知見を得た。

### 3) 日本建築学会大会での研究発表

「五輪開催決定による市民の社会参加意識の変化に関する研究」と、「公共施設再編のための市民合意形成手法に関する研究」を発表した。

## 社会貢献

### 1) 月島長屋学校での活動

2013年10月に月島長屋学校を開校して以来、授業の実施に加えて、学生も参画しての市民講座やまち歩きツアーなどを実施している。市民講座は、ほぼ毎月開催しており、毎回約10名の市民が参加している。学生が参画しての活動では、「月島路地マップ」の英語版「Tsukishima Alley Map」の作成と外国人を対象としてのまち歩きツアーの実施などがある。

### 2) 船カフェと豊洲水彩まつりの開催

豊洲地区運河ルネサンス協議会と連携して、船着場に係留した船をカフェにする「船カフェ」を2015年6月に開催し、約15名の学生が参画した。また、同じく豊洲地区運河ルネサンス協議会と連携して、豊洲運河船着場とその周辺を会場とする「豊洲水彩まつり」を9月に開催し約1,300人の来場者があった。約15名の学生が参画した。

### 3) お台場Eポート防災交流大会

運河の活用を促進しようとするイベントである「お台場Eポート防災交流大会」（毎年9月開催）に、約30名の学生が参加した。学生は運河活用を実践すると共に、多くの他大学生や市民と交流した。

### 4) 江東水彩都市フォーラムの開催

NPO法人江東区の水辺に親しむ会と連携して、江東区の内部河川・運河の活用を促進しようとする「江東水彩都市フォーラム」を、2015年10月に豊洲シビックセンターで開催し約100名の市民が来場した。学生6名が企画と運営に当たった。

### 5) 市民講座「2020年のおもてなし ～東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」の開催

市民を対象とする芝浦工業大学公開講座で、東京オリンピック・パラリンピックに向けてのボランティア育成を目的とする講座を開講した。3回シリーズで約50名の受講者があり、学生はクルーズガイドやアンケート調査の支援を行った。

### 深川東京モダン館での作品展と 発表会・公開講評会

建築学科「地域設計演習」「建築ゼミナール2」「建築設計演習I」の作品展を2015年6月13日～21日の9日間にわたって、江東区の観光・文化拠点である深川東京モダン館で開催した。各々のテーマは「河川・運河と水辺を中心とするコミュニティ・デザイン」、「2020東京オリンピック・パラリンピック大会に備える」、「まちと暮らす小学校」であった。9日間で合計約130名の来場者があり、学生達の提案を広く地域社会に発信することができた。学生は、作品に対する市民の評価を確認することができ、市民と意見交換する機会も得ることができた。また6月20日(土)には、学生発表・公開講評会を開催した。15名の学生が作品について発表し、来場者は21名であった。来場者の中には、本学の学生8名も含まれていた。学生は、学内の発表では体験できないような市民の評価を確認することができ、また市民との意見交換を行うこともできた。講評会終了後にはアンケート調査を実施し、来場者がこの学生発表・公開講評会について高く評価していること、また学生にとっても良い経験になったことが確認できた。



学生発表・公開講評会：15名の学生が発表し、市民から講評を受けた

### 月島長屋学校での活動と Walk21での受賞

地(知)の拠点整備事業を契機として開校した「月島長屋学校」は、中央区月島にある芝浦工業大学の研究・地域貢献施設である。学部や大学院の授業で毎年使用

されている。また、学生も参画しての市民講座やまち歩きツアーなどを実施している。学生は、まちをただ見るだけではなく、長屋学校を介することで市民と対話して、確実にまちの状況や課題を把握することができている。

長屋学校での学生達の活動は様々である。取り組みの一つとして「月島路地マップ」(月島の路地の魅力を紹介している)の英語版「Tsukishima Alley Map」を市民と連携して作成した。同時に、この地図を使用しての外国人へのまち歩きツアーを開始し、これまでにミシガン大学、カリフォルニア大学、ユタ大学の教員と学生が来訪し、またまち歩きツアーを通じて、外国人学生との交流も深められている。今年度は約15名の学生が参加した。

以上のようなTsukishima Alley Mapを使用しての活動を、国際会議Walk21の国際コンテストWalking Visionaries Awardsに応募したところ、Advocacy, Campaigning and Social Projects部門受賞作品に選ばれ、学生6名が2015年10月に行われたWalk21国際会議に参加し、英語でプレゼンテーションを行うと共に、授賞式にも出席した。(月島長屋学校ウェブサイト：<http://www.tsukishima.arc.shibaura-it.ac.jp>)



月島長屋学校：学生は市民と対話する機会を多くもっている(写真提供：東京新聞)



Walk21国際会議：学生はTsukishima Alley Mapについて発表した(写真提供：Walk21)

## 船カフェと豊洲水彩まつり

豊洲地区運河ルネサンス協議会と連携して、「船カフェ社会実験」を2015年6月5日～7日の3日間にわたり実施した。また、豊洲地区運河ルネサンス協議会や企業、NPOと連携して、「豊洲水彩まつり」を2015年9月12日に開催した。芝浦工業大学は、社会貢献の一環として豊洲地区運河ルネサンス協議会の事務局を務めている。

船カフェ社会実験は、豊洲運河船着場に係留した船をカフェにする取り組みで、2011年から毎年開催している。週末には協議会メンバーである町会や自治会が遊歩道に露店も出している。約15名の学生が、企画段階から参画し、当日も運営スタッフとして活躍した。3日間で約1,000人の来場者があり、多くの市民が水辺を楽しんだ。また、船カフェと同時に実施している運河クルーズでは、2014年から学生がクルーズガイドを務めている。これは、学生が作成したガイドブックに従いクルーズでの豊洲地区の見所を紹介するもので、市民から好評を得ている。運河クルーズは毎便満席で、3日間で約300名の市民が運河クルーズを楽しんだ。

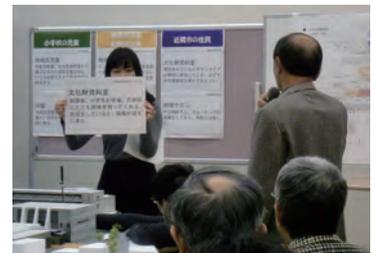
豊洲水彩まつりでは、夕暮れの運河クルーズ、水辺のキャンドルアート、キャナルバー、フォトコンテストなどが行われた。約15名の学生が、企画段階から参画し、当日も運営スタッフとして活躍した。夕方からの開催であったが、約1,300名という多くの市民が来場し大いに賑わった。



運河クルーズ：船カフェや豊洲水彩まつりの運河クルーズでは、学生がガイドを務めている

## さいたま市公共施設複合化基本計画策定

さいたま市は、市民の創意工夫をもとにした公共施設の再編を推進していることから、与野本町小学校を核とする公共施設複合化基本計画策定のためのワークショップを企画・運営した。参画した5名の学生は、自治体職員や建築設計事務所と連携しながら基本計画模型を製作し、その説明やワークショップの司会を務めた。また、市民と対話しながら、複合化された公共施設での市民同士の交流イメージをカードといったツールにまとめた。結果として、与野本町小学校を核とする公共施設複合化基本計画と交流イメージ案を決定することができた。



与野本町小学校を核とする公共施設複合化基本計画策定のためのワークショップ

## 南会津町特産品開発への支援

中山間地域に位置する福島県南会津町は、過疎が進行しており、住民や町は、なんとか集落と町を維持しようと熱心に取り組んでいる。また国土計画的観点からも、中山間地域に人々が積み続け、長い年月をかけて整備されてきた環境を維持することは大きな課題である。そこで、特に熱心に取り組んでいる「たのせ集落」などで、特産品開発などの支援を行った。参画した約15名ほどの学生は、特産品の企画、ラベルのデザイン、販売促進のためのチラシ作成や実際の販売活動の支援を行った。



たのせふるさと祭り：学生達は、自らがデザインした特産品を販売した